

# 発達障がいのある 児童・生徒の支援と相談

発達障がいについて基礎知識を正しく理解するとともに、現在障がいのある児童・生徒をもつ保護者への具体的な支援の在り方から発達障がいに関連する支援機関との情報交流を通じて、障がいのある児童・生徒及び保護者等が連携できるようなプログラムを提供します。各講義の概略やねらいは裏面を参照願います。

受講対象は、幼稚園・保育園・認定子ども園、小・中・高校、特別支援学校等の教諭、保護者及び関心のある方とします。

8:40受付開始、講義時間9:00～12:00

回数	開講日	内容	講師
第1回	4月24日	第一部 発達障がいとは 第二部 不登校や引きこもりは障がいではない	岐阜県立希望ヶ丘子ども医療福祉センター 児童精神科部長 高岡 健
第2回	5月15日	自閉スペクトラム症児の内面理解と支援 (学校(園)及び家庭において)	岐阜大学 教育学部 教授 別府 哲
第3回	6月5日	子どもと保護者のココロに寄り添う丁寧な支援について ～実践事例を紹介しながら～	大垣女子短期大学 幼児教育学科 教授 松村 齊
第4回	6月26日	乳幼児期からのライフサイクルを通じた発達支援	中部学院大学 教育学部 教授 別府 悦子
第5回	7月24日	ことばが滑らかに出来ない(吃音)と困ること、 そしてその解決法	岐阜大学 教育学部 教授 村瀬 忍
第6回	8月21日 (10:30終了)	凸凹脳をもつ子どもたちの社会的役割と仕事継続に 向けて	岐阜保健短期大学 リハビリテーション学科 講師 稲葉 政徳
第7回	10月2日	アサーション・トレーニング ～相互の尊重を目指して～	岐阜大学 教育推進・学生支援機構 特任教授 山田 日吉
第8回	10月16日 (10:30終了)	つながろう ～ネットワークづくり～	岐阜大学 医学教育開発センター 助教 川上 ちひろ
第9回	10月23日 (10:30終了)	みんなが支え合う地域づくりをめざして	岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授 安田 和夫

募集定員 50名

会場地図

受講料 9,000円  
(ネットワーク大学コンソーシアム岐阜加盟機関の教職員は無料)

受付期間 平成28年3月17日(木)から受付開始

会場 岐阜大学サテライトキャンパス  
〒500-8844  
岐阜市吉野町6-31  
岐阜スカイウイング37東棟4階  
(お子さんと保護者の待機室の用意があります)

申込方法 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜のホームページにある申込フォーム又はFAX、メール、電話で氏名、住所、年齢、電話番号を下記連絡先までお知らせください。  
電話 058-212-0393 メール info@gifu-uc.jp FAX 058-212-0391  
ホームページ http://www.gifu-uc.jp/



携帯からのお申し込みはこちら!

# FAX用 受講申込書

FAX送付先番号 058-212-0391

下記の通り共同プログラムに受講申し込みします。

下記記入欄の該当箇所に☑印を入れてください。

フリガナ	
お名前	☐男 ☐女
電話番号	
Eメール	
住所	〒 -
年齢	☐10代 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代 ☐60歳以上
職業	☐ 学校関係者 ☐ 保護者 ☐ その他( )
個人情報の同意	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜から他の講義や講座情報をご案内するために、お名前、住所等を利用していただいてもよろしいでしょうか。 ☐ 同意する ☐ 同意しない

回数	講義概要
第1回	発達障害という言葉は、しばしば誤った形で使われています。第1の誤りは、発達障害は知的障害とは違うという言説です。第2の誤りは、発達障害を有する人を、定型発達者の社会へ一方的に適應させることが正しいかのような言説です。同様に、不登校やひきこもりを、子ども・若者の生き方や権利としてとらえず、障害や病気の症状であるかのようにとらえる誤りも散見されます。当日は、これらの誤りをただし、支援に携わる上での基本スタンスを身につけるための話をします。
第2回	自閉スペクトラム症の子どもは、「自分の世界に閉じこもっている」、「人の気持ちがうまくわからない」など一面的に誤解されることが多い人たちです。多様な思いを持ち行動することについて、事例を踏まえ検討したいと思います。
第3回	障がいや発達に関する知識を持つことは科学的な支援をしていく上で重要です。しかし、支援を必要としている相手は人であり、支援をする側も人です。そこには、人への限らない愛情や思いが何よりも大切なことを多くの子どもや保護者から学びました。そこで、今一度、子どもの内面に寄り添う丁寧な支援とは何か、丁寧な支援を行うことは何を意味するのかなど、各校園での実践事例を具体的に紹介しながら、自らの実践を振り返り、明日への支援のあり方を学びます。
第4回	子どもの支援は学校教育から始まるのではなく、それまでの発達過程や周りとの関わりが重要です。ことにその子の内面を理解し、その子にあった「当事者目線」の支援が求められています。この講義では、発達の理論をお話した上で、乳幼児期から学齢期、思春期、青年成人期までのライフサイクルを通じた発達支援を、事例を通して考えていくことができればと思います。
第5回	吃音は100人に1人と、多くの人に生じるにもかかわらず、周りから誤解されて一人で悩みを抱えている当事者は数多い。周りの誤解で最も困ったことは、吃音はトレーニングで治ると考えられていることである。吃音への対応は症状を軽減するための対症療法であることを踏まえ、参加者の方々には吃音の症状とは何であるのか、症状の軽減には何が必要であるのかを考察していただく。思いが伝えられないもどかしさに共感できること、それが吃音解決の手がかりであり、だれもが生きやすい社会を構築する第一歩である。
第6回	第1章: 当事者としての振り返り 第2章: 就労移行支援事業所の実態調査から 第3章: 高等教育の現場から見た「課題」について 第4章: 将来、社会的役割を獲得し、継続していけるために ~今なにをすべきか~
第7回	アサーション・トレーニングとは、自分も相手も大切にしたい自己表現を身につけていくトレーニングです。この講座では、子ども達に自尊感情をもたせ、きちんと自己主張できる力を育てるための方法を演習を通して学びます。
第8回	発達障害のある児童・生徒が、地域の中でよりよく成長し、また家族がその成長を促すために、それらを支援してくれるさまざまな資源があります。岐阜県内における利用可能な、公的資源(医療機関や相談施設など)、私的資源(NPO法人など)について触れたいと思います。また、これらの資源に繋がっているとよい点は、児童・生徒(学童期)に限らずその後も有効であることがしばしばあります。具体的事例を示しながら、考えていきたいと思います。
第9回	発達障がいのある子ども達や青年達への理解と支援のあり方は地域社会の成熟度とも言えます。お互いに支えあう共生社会をめざした取り組みを紹介しつつ、自分達にも今からできることを考えていきます。また、ご家族やご本人を中心にしながら、行政、学校、関係機関、地域社会がどのようにチームサポートしていくことができるのか、多職種連携の可能性を探っていきます。

お申込み時にいただいた個人情報は、講座担当大学等と共有させていただく場合があるほか、休講などのご連絡及び同意を得た方にはネットワーク大学コンソーシアム岐阜からの講義や講座情報のご案内に利用させていただきます。

情報は厳重に管理し、法令上の理由など特段の事情がない限り許可なく第三者への提供は致しません。